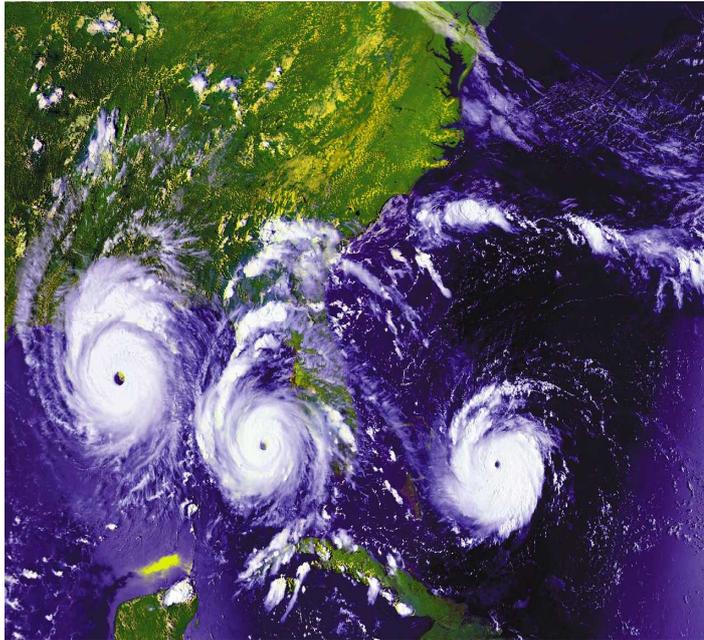




去年における台風の沖縄への上陸数は？



梅雨も明け、いよいよ本格的な夏になってきました。夏は海水浴を楽しんだり、旅行に出かけたりとレジャーを楽しむ季節ですが、一方で台風の発生が一番多い時季です。

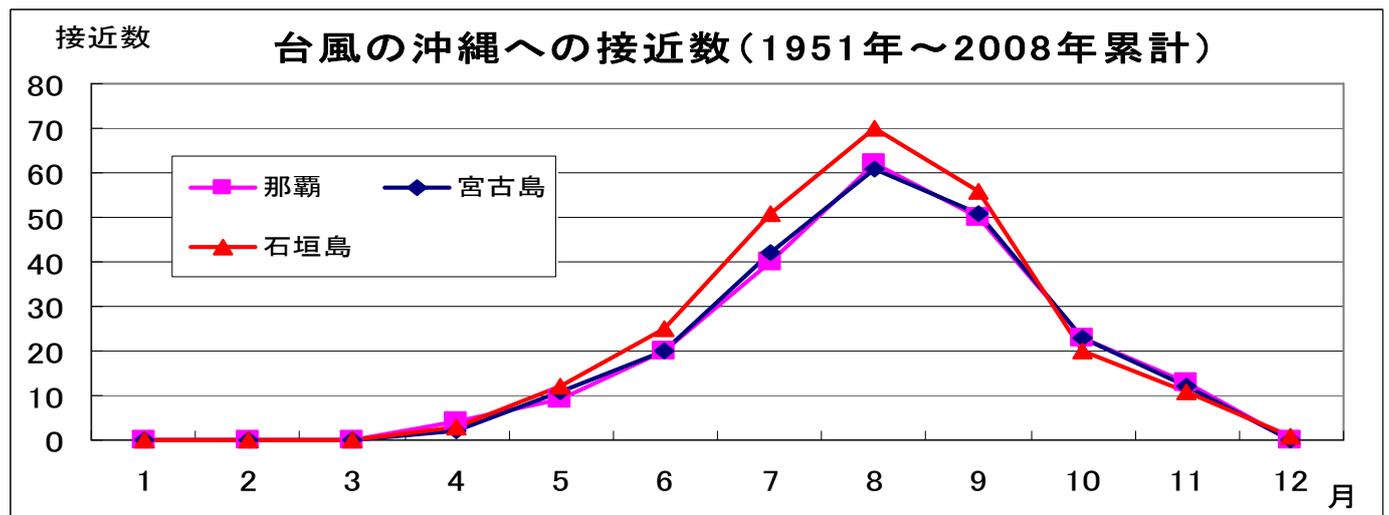
ところで、去年の夏、沖縄への台風の上陸数はいくつだったかご存じでしょうか。

・・・2つ？、・・・4つ？、・・・6つ？

実はどれも不正解です。

正しくは、沖縄への台風の上陸は一度もありません！

日本の気象庁の定義によれば、台風の「上陸」とは、台風が中心が北海道、本州、四国、九州の海岸に達することをいいます。したがって、台風が上記4島以外の島の海岸に至っても上陸とは言わないため、沖縄県に台風が上陸することはありません。台風が中心が、小さい島や半島を横切って、短時間で再び海上に出ることは、「台風の通過」と呼ばれ、沖縄の場合は「台風の通過」と



沖縄気象台統計資料より

(注)接近とは、台風が中心が那覇・宮古島・石垣島のそれぞれの気象官署300km以内を通過することをいう。

グラフから分かるように沖縄では、8月が台風の接近が最も多くなっています。

ちなみに1951年～2008年の累計で見ると、日本で1,537個の台風が発生し、うち約28%の427個が沖縄に接近しています。

台風の功罪

台風は災害ではあるが、定期的に襲来するものであり、それなりに地域の自然の中で位置づけを持つものもある。たとえば沖縄では台風の降水は地域住民にとっては水確保の上で重要な意味を持つ。同様に、沖縄における森林の物質循環を考える場合、落葉量に関しては、台風時のそれを無視することが出来ない。

『フリー百科事典「ウィキペディア(Wikipedia)」より』